

○7月6日(木)～8日(土) 2泊3日 特別同調例会

第56回全日本登山大会・北海道大会開催

「湧水の羊蹄山と緑に映えるニセコ山系」

参加者 旗振支部 ・T・I ・H・F ・T・T  
・M・K ・K・S ・T・Y  
・M・Y ・S・W

T・I

第56回全日本登山大会北海道大会が7月6日～7月8日まで北海道定山峡「定山峡ビューホテル」を会場としニセコ山系で開催された。

神戸空港8時45分フライト新千歳空港10時35分到着JR、定鉄バスに乗り継ぎ、会場に向う。15時より開会式、記念講演と大会の幕を切る。

2日目は、7コースに分かれ目的の山にチャレンジ。下山後18時30分より定山峡ビューホテルにて夕食交流会及び閉会式が予定通り行われた。参加人数は役員を含め280名との報告があり近年にない盛大な大会となる。

羊蹄山縦走コースに応募が集中し急遽定員を40名増やすが一部他コースへ余儀無くされる。大会挨拶の中で「山を楽しむ7つの約束」と説明がありました。

約束の2つを紹介①「軽装備登る前から遭難者」②「あなどるな、過去の体力、過去のもの」

2日目涼しいハズの北海道も蒸し暑い、気温35℃、前日の寝不足も祟るが、登山中足が上がらない息が苦しい「過去の体力過去のも」身を以て実感する。

早い来年57回大会は、6月16日(土)～18日(月)京都大会と報告があり夫々の思いで、岳友際会を期待する。(登山報告は別途参加者より)

H・F

全国から280名もの参加と聞いてその人数にビックリ！私は京極コース往復で参加。

標高1898m目の前の羊蹄山を見て「あんな高い所までの登るんや～」と思いながら気持ちを引き締める。厳しいコースと聞いていたが！マジにきつかった。お花は残念ながら咲いて無くて、樹林に囲まれながらひたすら汗を拭



遠く羊蹄山を望む

きながら登る。6合目あたりからがれ場になり傾斜がきつく足元に注意をしながら慎重に登る。登り斜面からは抜群の展望が見えて素晴らしかった！9合目を過ぎ岩のゴロゴロした斜面をひと登りすると外輪山にポーンと出る。そこは京極のピークでした。山頂は素晴らしい眺め、疲れも吹っ飛ば、透き通る様な空360度快晴、お鉢が手に取るように観えました。そこで(\*^\_^\*)セクシーポーズでハイ楽しい記念写真のタイム。

前方から聞いた様な声、真狩コースからの我が旗振のメンバーと出会う、7人お互いに健闘をたたえハイタッチ。間もなく下山開始。疲れの為か下りは「めっちゃめっちゃ」長く感じました。山麓で札幌登山会の小屋で頂いた湧き水、とっても冷たく美味しかった有難うございます。羊蹄山登頂、景色いろいろ、私は、みんなと一緒に感激出来た事が幸せです。

お世話いただいた役員の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございました。

T・Y

第56回全日本登山大会羊蹄山「京極往復コース」に参加させていただき、無事頂上に立つ事が出来ました。登山口は広々としたジャガイモ畑の

中にあり、見上げると大きな羊蹄山がそびえていました。標高差約1500m登れるかな？迷惑掛けないかな？不安になりつつみんなについて登る。4合目あたりから、傾斜が急になり、「大きな岩、太い木の根っこ、厳しく、辛く、苦しい登り坂」でした。でもでも！何時の間にか頂上に着いていた。嬉しい～。雄大な山々、綺麗な青空、素晴らしいお鉢、ありがとう。遅れているらしい休憩もそこそこ、早々に下山開始長いゴロゴロの下り、もう「イヤ」「まだ～」独り言が出てしまう。やっと林道に出て振り返れる余裕らしき歩きになりました。

滑らないようにと慎重に下った登山道、お花をゆっくりと見る余裕も無く、ひたすら頑張りの山行でした。

初めての参加「開会式、登山、懇親会、閉会式、飛行機での旅」3日間天候に恵まれ旗振の方と一緒に楽しい思い出が残る全日本登山大会でした。

そして北海道山岳連盟のスタッフの皆様、いろいろとお世話になり有難うございました。

#### S・W

全日・名前は聞いていましたが本当の大会名は知りませんでした。正式な呼び名は「全日本登山大会」との事。旗振から8人が参加しましたが6人が初参加私はその内の1人です。

当日受付で戴いたプログラムを見ると北海道知事、札幌市長、大会役員、クライミング会長、こんな人よう登るやろか？内容が解らないまま翌日4時起床北海道の夜明けは早い4時30分出発。真狩口往復コース、ヒヨコ3人組（山田・鈴木・渡辺）少し不安でしたが出発。

登り初めは早朝なのかきつかった。その後は思っていたより自然体で登り頑張りました。時折イワキキョウ、リンドウ、ミヤマオダマキ、等々お花が咲いていました。休憩時振り返り景色を観ると山並み、街並みがパッチリ凄く綺麗な展望、疲れも吹っ飛びました。間もなく外輪山に出ましたが「直径700m周囲2km深さ200m」とのこと、大噴火口を眺めながらお鉢を周遊頂上へ向かう。途中Gコース京極口往



復の4人（乾、福永、山口、田淵）と頂上付近で交差、ことばを交わすが足元が？お花畑を通過。時折涼しい風が通りスート気持が良い。山頂に着いた嬉しい～。記念写真を撮りお鉢を眺めながら食事。時間が無いのか出発の合図。下りは急勾配が続き緊張の連続。滑り易く予定より時間が掛かりました。

ホテルに到着入浴。19時から夕食交流会（懇親会）10回以上参加されているKさんIさん、おなじみのお友達と何か語り合っている、私達も負けずと仲間入り、わいわい楽しくビールとお酒で…………。

来年も京都で逢いましょう。

#### K・S

北海道へは、観光で2、3、回行きましたが、登山は初めてです。高い山の経験は無く少し不安でした。渡辺さんより「あんたは一番年下や、みんなに着いて行くだけでいいやで」と言われ気が楽になりました。

開会式 偉い人のお話し、こんなの初めて少し緊張しました。式典終了。私達ヒヨコ3人は（山田さん、渡辺さん、私）同じ部屋になり、おしゃべり楽しい登山前夜となりました。さて明日は早起き準備は完了？「羊蹄山」へチャレンジ。

翌朝4時30分ホテル出発。羊蹄自然公園から登山開始。4合目5合目と急傾斜になり、段差も高くなりえぐられた様な道を頑張り登りました。間もなく小さなお花畑を通過展望も開け気持ちの良い8合目付近に到達。尾根まで一息二息、やっと羊蹄山外輪まで来ました。火口縁を半周回って三角点を目指す。お鉢の向こうは岩稜が鋭く見



るだけで怖く感じました。山頂付近で乾さん他ヒヨコ3人とすれ違ったが話をする余裕もなく「疲れた～手を取り互いに目で激励」間もなく苦し紛れで三角点に到達。「お鉢を眺めて山頂に立つ」百名山誌で見た同じ光景なんとも言えない満足感に浸りました。さあ下り先輩達の後を追ひ下るのみです。途中少し多めの休憩をして戴けたので助かりました。ホテルに着き入浴も早々に会場へ。

懇親会の席は山岳連盟別と伺っていましたが、登山コース別でした。旗振4人と別々の席になり少し途惑いしましたが、直ぐなじみ食事と共にお話し全開、あちらこちらと席を回りこれが「全日の懇親会雰囲気」ですネ、楽しい夕食会でした。

翌日は朝食後自由解散との事、有難う御座いました。私達3人は一足早く定山峠を出発。札幌で観光をします。どこがイイ～観光案内所で教えて戴き、時計台、雪まつり通り、食事処、お土産屋……打ち合わせ。うには？イクラは？海鮮丼は？「どこだったケ？道迷い尋ねるより早くスマホが案内」誰かさんご希望の海鮮丼(私は苦手)を食べ市内ウロウロ。運良く何かお祭りをしている！目抜き通りの出店と踊りを観ながら北海道の旅終了。

札幌を後に千歳空港へ。SKY17便16時5分発。札幌を飛び立ち神戸空港へ。

#### M・Y

羊蹄山は大変な山らしい。六甲摩耶山あたりで満足の私にとって参加するのは大事だ。

8名の参加者は3コースに分かれ4時30分バスでホテル出発。真狩コースを選んだのは初

心者向けとの情報からだ。細川たかし出身地の真狩村をちらと眺めて不安を抑える。車窓から見上げた羊蹄山には傘雲。399m登り口、真狩キャンプ場でストレッチなど終え5時50分出発する。

現地リーダー6名と43名。二合目まで湿気た泥壁を勢いつけて行く。谷間スミレを見た。太いダケカンバが倒れ、それをつかみながら行く。道を狭める根曲がり竹にストックが跳ね返されそう。930m四合目8時10分ここから15回のジグザグで急勾配を行くのだが誰か気合の声をあげている。そのうち1321m6合目8時59分タコガンビを見上げる。1600m八合目で休憩。そして森林限界に来た。お花畑が始まり砂地を登る。遠く左に、なだらかな緑の斜面に雪渓と避難小屋を眺めるが都度、深呼吸するようになる。花々が癒してくれるが暑い。やっと外輪山に出た。眼下に父釜の火口が大きく広がり爽快な気分。だが、暑い。リーダーが冗談のように25分で頂上と言う。一息入れお鉢巡りが始まる。ザラザラ滑りそうになりながらまたかけあがり、岩場にくると京極コースから登って来た旗振メンバー4人と感動のハイタッチ。



12時、羊蹄山山頂1898mに立つ。食事の合図だが昼食は僅かしか食べられない。エゾツガザクラ、ヒカゲツツジ、イワギキヨウを惜しみつつ帰路はより安全な歩行を心がける。

そして閉会式参加。アイヌの唄、踊りが賑やかに催され、北海道らしいご馳走を頂きながら隣り合った他府県の参加者と親睦の輪があちこち出来る。私達も楽しみました。そして来年度の京都へバトンが渡される中、全日に参加してよかつ

たと思った。

**M・K**

全回の北海道大会から9年目、同じ北海道大会です。私は、Bコース、ニセコエリアのイワオヌプリ、ニトヌプリ縦走コースを選びました。イワオヌプリは、1116mの高さですが、ニセコ火山群でも一番新しい火山です。ザレ状の踏み跡を辿って急斜面を登りました、頂上は白い岩盤でした。展望は360° 楽しみましたが、食事時間は10分程度で下山となり、ざれざれの道をころびながら下りました。大沼分岐まで戻りニトヌプリへ取り付くのですが、ここで私

は「登山口の五色温泉へ下る様指示」され、救護班の方と他女性3人と戻りました。完走した方に聞くと「ニトヌプリは、1080mの高さでロープのある急な登りやフラットの道が有り、頂上まで急斜面をジグザグに笹の中を登ったそうです。下りは、ニセコパノラマラインの峠に向かい岩のゴロゴロした道を下つてスリッパ捻挫に気が付いた」とのことです。私は、先に下山口に廻り皆さまを出迎えました。

北海道の山道は本州より険しく整備されていませんので、しっかり登らないと恐ろしいと実感した2泊3日でした。